



# 神苑の決意

所懐

## 「社頭」から考える神と人

【本号の内容】「所懐」「社頭」から考える神と人(木川智)：1 / 【主

張】東京 M X 「ニュース女子」沖繩蔑視・ヘイトデマ報道を許す  
な(西山徹)：3 / 【連載】アジア放浪記―タイ王国を見て皇国  
を尊ぶ②(仲村之菊)：5 / 【連載】『倭姫命世記』を読み解く②  
―二神約諾神話をめぐって―(柳凜)：8 / 活動報告：10 / 談  
話室：15 / 花瑛塾日誌：16 / 編集後記：16

「神苑の決意」第 4 号  
平成 29 年 2 月 1 日発行

頒価：1 部千円  
(送料別途 160 円)

平成二十九年も早くも一ヶ月が経ち、二月となった。家族での団欒や実家への帰省など、読者諸兄それぞれの年末年始を過ごされたことと思う。

私事ながら、年末年始は神社で奉仕をした。神社では、大晦日には年越大祓や除夜祭などの祭事があり、元日には歳旦祭、三日には元始祭などが行われる。さらにはいわゆるお焚き上げやどんと焼きなどといわれる古神札燃納祭もあり、正月儀礼とは異なるが成人祭なども続く。その上で初詣客が多数訪れるとともに、祈願祭の齋行や神札頒布など、年末年始の神社はとても忙しい。そうしたなかで祭祀の補助や参拝者の受付

などの奉仕をしたわけだが、忙しくも神明奉仕により心洗われる貴重な体験であった。同時に、社頭に立つことにより神社実務といわれる神明奉仕の実際に触れ、参拝者と直接触れ合うことで信仰の実態を知った。

わが花瑛塾は神道信仰・神道精神に基づくを基本とするが、この神明奉仕がそのための役に立ったことはいままでもない。

### 古代・中世の神社修造と神職

御祭神が鎮座してさえいければ神社といえるわけではない。「外宮儀式帳」には外宮祭神・豊受大神が伊勢に鎮座した理由として、内宮

祭神・天照大神の託宣が次のように記されている。

吾れ高天原に坐して見しまぎ賜ひし処に  
しづまり坐しぬ。然れども吾一所にのみ  
坐すは甚苦し。しかのみならず大御饌も  
安く聞こし食さず坐すが故に、丹波国比  
治の真奈井に坐す我が御饌都神、等由気  
太神を我が許に欲りす。

大御饌の供進のために内宮祭神が外宮祭神を伊勢に呼んだと読める。ここから、御祭神が鎮座してさえいければ神社ではなく、御饌供進など日々の奉仕・祭祀や社殿の整備をしてそれらを担う神職と信仰者の存在が一体となってこそ神社といえるだろう。